

UR Project

北九州学術研究都市南部地区

UR都市機構では、土地の造成や道路等のインフラの整備にあたっては、まちづくり方針に従い、「環境との共生」「人にやさしい」「景観の配慮」を目指して大規模なものから細かなものまで様々な取組みを行い、整備を進めてきました。

また、北九州市ではキャンパスの整備を進めるにあたっては、環境共生（屋上・壁面の緑化等）や自然エネルギーの積極的活用（地中熱による予冷・予暖等）、省エネルギーと資源の再利用（水資源の有効活用と排水浄化を目指した水リサイクルシステム等）に取組み、自然・環境を大切にしながらエコキャンパスを実現しています。

まちづくりのコンセプト

学研都市は、まちづくり基本方針において

- ・自然にやさしく自然と共存するまちづくり
- ・人々の快適な暮らしを演出するまちづくり
- ・開放的で分かりやすいまちづくり

の3つのテーマを定めインフラ整備を一体的に進めてきました。

事業経緯

学術研究都市の事業は3期に分け、このうち第1期事業分、約121haをUR都市機構が北九州市の要請を受け「北九州学術研究都市南部地区画整理事業」として実施することとなりました。

II 北九州学研南部地区「ひびきの」の概要



■ 北九州学術研究都市の位置



北九州学術研究都市が広がるのは、北九州市の都心部小倉から西方約15kmに位置する緑豊かな335haの丘陵地です。このまちでは、北九州市とUR都市機構が一体となって新たな学術研究都市の整備を進めてきました。

当事業は、北九州市の基本構想に位置づけられ、自然環境と調和のとれた大学を中心とした学術研究都市の建設と、健全かつ良好な環境を有する住宅地の供給を目的としています。

UR都市機構は南部地区（第1期121ha）の土地画整理事業を推進してきましたが、平成18年6月23日に換地処分公告がなされ事業が完了しましたので、学研都市整備構想、UR都市機構のまちづくりの関わり方や、今後のまちづくりについて紹介します。



学研キャンパス全景（地区東部より望む）

事業経緯	
平成7年4月	都市計画決定
平成8年2月	事業計画認可
平成13年4月	北九州市立大学 国際環境工学部開学 早稲田大学 理工学総合研究センター開設 クランフィールド大学 日本センター開設 GMD-japan研究所移転 福岡県リサイクル総合研究センター開設
平成14年4月	国立九州工業大学大学院生命体工学研究科 校舎オープン
10月	北九州市住宅祭（第1期戸建住宅供給）
平成15年4月	早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 開設
平成17年7月	センター施設オープン
平成18年6月	換地処分公告（6/23）



平成15年4月 早稲田大学大学院情報生産システム研究科(私立)



平成14年4月 九州工業大学大学院 生命体工学研究科(国立)



平成13年4月 北九州市立大学国際環境工学部(公立)



既存ため池の利用
(北九州市立大学内花村池)

住宅地

III まちの成熟プロセス

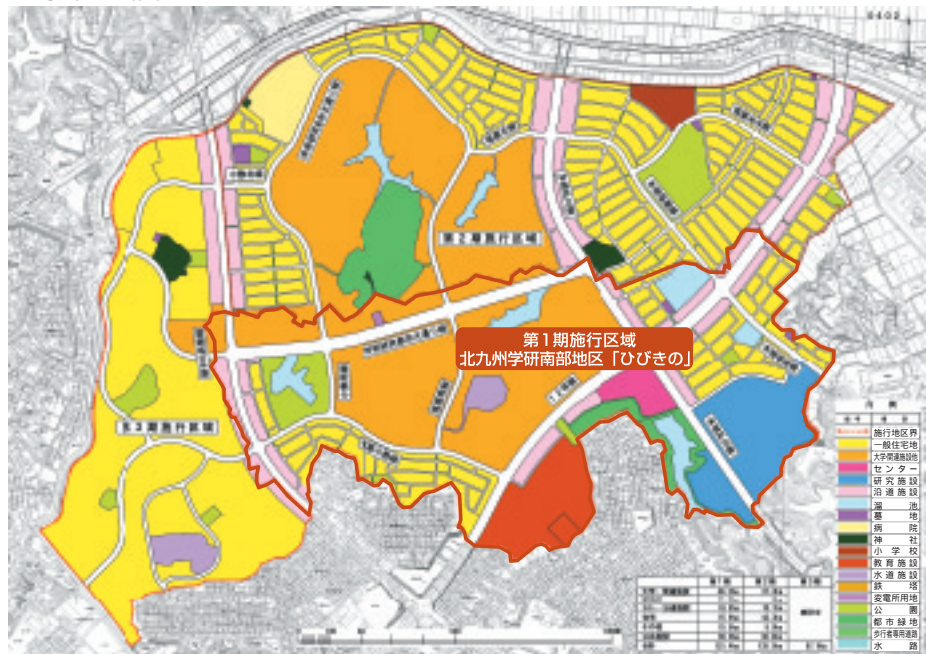
まちの成熟には、宅地の早期販売が重要課題です。今後の販売については、業務施設系12・4haが残されていますが、現在、市施行の第2期事業（学研北部地区）も含めた北九州学術研究都市全体の利便性を向上させるため、商業系集客施設立地が可能となるような用途・地区計画に変更するよう関係部局と協議・調整を進めており、早期の施設用地販売を目指しています。

北九州学研都市は第1期の事業収束という節目を迎えましたが、UR都市機構はさらに地区内の各種施設の誘致や住宅用地の販売に取組み、まちの成熟を図り、地域の方々への期待に応えていきたいと考えています。

I 北九州学術研究都市の整備構想

「北九州学術研究都市」は北九州市が平成元年1月に発表した北九州ルネッサンス構想の4大プロジェクトのひとつとして、「新北九州空港」、「響灘環黄海園ハブポート」、「東九州自動車道」とあわせて、市の未来を担う都市整備プロジェクトです。

■ 事業区域図



北九州学術研究都市			
計画人口	約12,000人（夜間人口）		
【第1期】	約121ha	都市再生機構施行	H7年度～H18年6月
【第2期】	約136ha	北九州市施行	H14年度～H21年度
【第3期】	約68ha	検討中	
【河川事業】	約10ha	検討中	
計	約335ha		

■ 北九州学研南部地区「ひびきの」

事業名称	土地利用計画【第1期】
北九州都市計画土地画整理事業	大学・関連施設用地 38.2ha
北九州学術研究都市南部地区画整理事業	幼稚園 0.5ha
施行地区の位置	教育施設用地 7.4ha
北九州市の中心市街地小倉より西へ約16km	センター用地(商業) 2.3ha
JR鹿児島本線折尾駅より北へ約2km	研究所等 12.9ha
福岡市の中心博多駅周辺より北東へ約48km	住宅用地等 30.1ha
施行面積 121.4ha	公共用地 30.0ha
計画人口 約3,500人	

北九州市は、この学研都市の目標を「アジアの中核的な学術研究拠点」「新たな産業の創出、技術の高度化」としており、アジアに近いという地理的優位性から、先端科学技術の教育・研究を行う大学等の集積や工業都市として産業技術の集積を学研都市の研究開発と結びつける産業の創出を目指しています。

中核となる大学等の整備に当たっては、「北九州新大学構想」のもとに理工系の国立、公立、私立大学がハイレベルな教育研究環境の形成と未来を担う人材の育成を目指して、施設の共同利用など互いに協力し、連携を深めながら教育研究を行う我が国初の試みです。

学術研究都市の開発は、周辺の自然環境を生かしながら、良好な住宅地の供給を同時に行う「複合的なまちづくり」を目指しています。

学術研究拠点・新産業の創出を目指して

北九州学術研究都市南部地区

「ひびきの」の事業完了と今後のまち成熟に向けて